

## 街路事業の再評価概要書

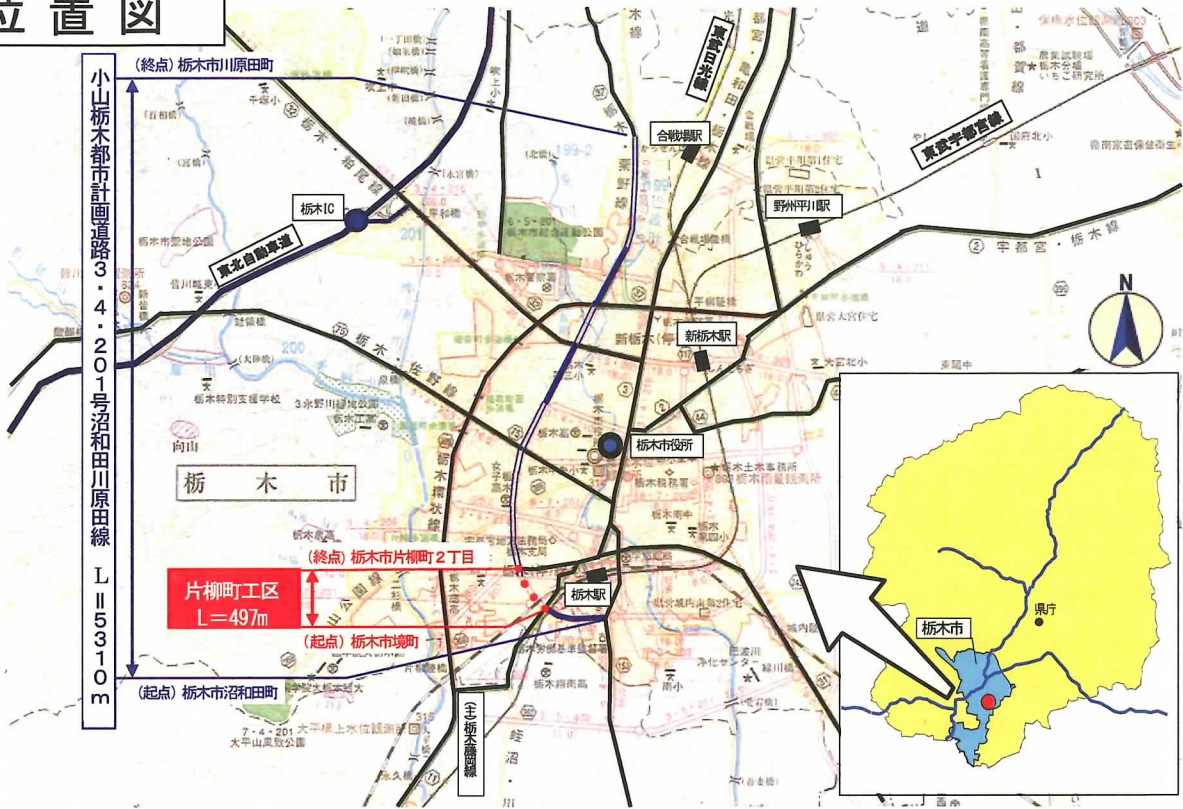
( ) は、前回計画時

番 号		2	
事業主体		栃 木 県	
事業名	街路づくり事業	事業所管課	県土整備部 都市整備課
路線・河川名	小山栃木都市計画道路 3・4・201号 沼和田川原田線 <small>ぬまわだかわらだせん</small>	事業箇所名	栃木市 片柳町 <small>とちぎし かたやなぎちょう</small>
事業区間	栃木市境町 ～ 片柳町2丁目 <small>とちぎしきかいちょう かたやなぎちょう2ちようめ</small>	事業延長	497m
H15年度事業化	S39年度都市計画決定 (H12年度変更)	H15年度用地着手	工事未着手
事業期間	(H29年度) H15年度～H34年度	事業進捗状況	基準年次：【平成29年度末時点】
[うち用地補償費]	[13.3(13.1)億円]		進捗率
全体事業費	17.0(16.6)億円		[うち用地補償費] [11.4億円] [86%] 既投資事業費 12.8億円 75%
事業概要			
<p>小山栃木都市計画道路3・4・201号沼和田川原田線は、栃木市沼和田町地内から栃木市中心市街地西部を経由し、栃木市川原田町地内の主要地方道栃木栗野線に至る延長約5.3kmの都市の骨格を形成する幹線道路であり、栃木市街地の内環状線の一部を担う重要な路線である。</p> <p>しかし、栃木駅周辺は、栃木駅南側と北西側を連絡する幹線道路がなく都市の骨格形成が不十分であることから、栃木駅北側に交通が集中し、朝夕を中心に慢性的な交通渋滞が発生している。</p> <p>また、通勤通学する多くの自転車・歩行者が、自動車と混在し危険な状況にある。</p> <p>以上のことから、良好な市街地形成を促進するため、バイパスを整備することにより、交通の分散化による渋滞の緩和を図るとともに、自転車・歩行者の安全で快適な通行を確保する。さらには、第2次救急医療施設である“とちぎメディカルセンターしもつか”へのアクセス強化を図る。</p>			
事業を巡る社会経済情勢の変化、技術革新、事業計画の大幅な変更 等			
都市計画法に基づく事業認可期間の延伸			
事業の投資効果			
① 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】
1) 事業全体 B/C= 1. 1		23.2億円	20.8億円
2) 残事業 B/C= 6. 1		23.2億円	3.8億円
② 事業の整備効果等			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木駅南側と北西側のアクセス向上による栃木市中心市街地の経済活性化及び良好な市街地形成促進</li> <li>・内環状線の一部を整備し、交通の分散機能強化による交通渋滞緩和と都市内交通の円滑化</li> <li>・自転車・歩行者の安全で快適な通行空間の確保</li> <li>・第2次救急医療施設である“とちぎメディカルセンターしもつか”へのアクセス強化</li> </ul>			
事業の進捗状況等			
① 事業の進捗状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、用地の約9割を取得済みであり、残る1割の用地取得を推進している。</li> </ul>			
② 今後の事業進捗の見込み			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後残る区間の用地の取得及び工事を推進し、平成34年度を目標に事業完了を図る。</li> </ul>			
コスト削減等			
① コスト削減方策			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生骨材、再生アスファルト合材を積極的に活用しコスト削減</li> <li>・建設発生土の公共工事間流用によりコスト削減</li> </ul>			
② 代替案立案等の可能性			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大部分の用地を既に取得しており、また、栃木市街地の内環状線の一部として都市計画の諸手続きを経て整備を実施していることから、代替案立案は困難である。</li> </ul>			
事業の対応方針 (案)		本計画で事業を継続する。	

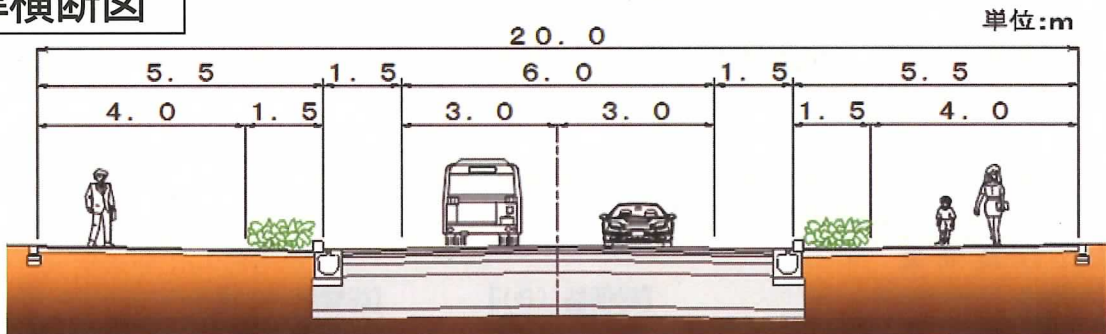


# 事業箇所 (位置図・概要図)

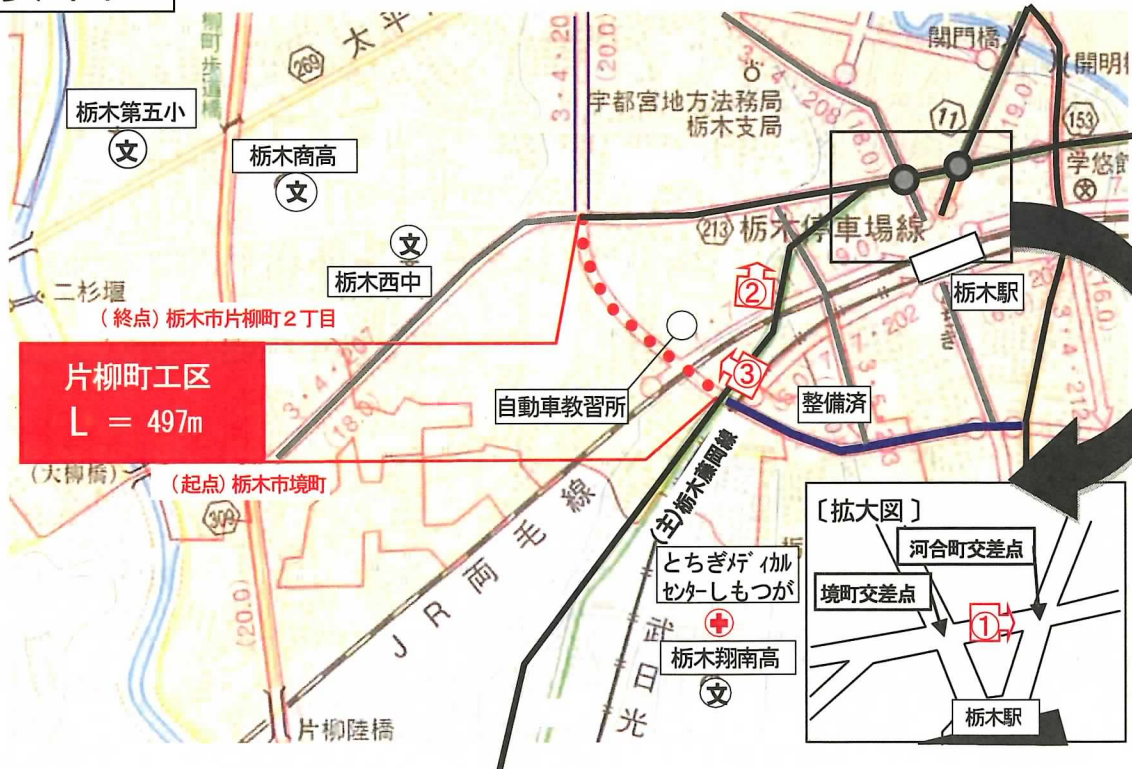
## 位置図



## 標準横断面図



## 概要図





写真①：河合町交差点からの渋滞状況



写真②：通学時間帯の状況



写真③：用地関係（起点側から終点に向けて撮影）